



秋田県議会議員

討議資料

小野 一彦

かつひこ

活動報告

「コマネズミ」の如く行動し思いを形にする!!

Vol.09

第9号 令和5年3月発行 発行:小野一彦

秋田県由利本荘市上大野85-1

TEL. 0184-74-6736/FAX. 0184-74-6737

秋田県議会議員 小野一彦

検索

<https://ono.akita.jp/>

令和5年度秋田県当初予算のポイント(抜粋)と小野一彦の取り組みについて

1 人口減少対策について

小野一彦の取り組み状況

令和元年

- 5月 秋田県Aターンサポートプラザ調査
- 11月 鳥取県及び島根県移住窓口調査

令和3年

- 5月～ 「秋田県に帰りたい若者たちと県内企業との出会いの会」開催(計4回開催)



令和4年

- 7月 Aターンプラザ秋田(東京事務所)調査
 - ・県内企業訪問し企業の良さを実地知り、東京で秋田県に戻り就職したい人からの相談にいかす。
 - ・Aターンサポートセンター(有楽町)調査
 - ・秋田県と関係のない方の移住相談者が2割。テレワーク勤務希望者が2割。
 - ・新規就農の相談への対応の充実
- 9月 Aターンサポートセンターへ聞き取り。秋田へ戻りたい方々の相談が増えている。

9月議会

令和4年10月4日

令和4年第2回定例会

予算特別委員会 総括審査



スマートフォンでQRコードをかざすと議会の様子を動画でご覧いただけます。

再生

▼若者の回帰・定着について 令和4年第2回定例会9月議会(10月4日・総括審査)



質問

首都圏等から秋田県に戻り就職したい方々への相談対応機能の強化を図るべきと知事や教育長に提案質問。

県の答弁
(県知事 佐竹敏久)

必要があれば機能強化を図りたい。

結果



YouTube

令和5年度当初予算で「あきた暮らし・交流拠点設置事業」が措置されました。

あきた暮らし・交流拠点設置事業

秋田への移住や、秋田に関心のある人の交流等を促進するため、首都圏における移住や就職のワンストップでの相談・交流イベント開催・関係人口に関する地域への橋渡し・情報の発信等により、「秋田で暮らしたい、秋田とつながりたい、秋田を知りたい人たちが、気軽に立ち寄り、集うことのできる拠点」を設置する。

あきた暮らし・交流センター(仮称)

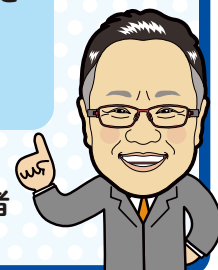
場所: 東京八重洲、京橋、銀座エリア
体制: 移住・就職・学生サポーター7名
東京事務所職員2名
営業時間: 月～日(10:00～18:00)
スペース: 82.5㎡(25坪)程度、1階(フリースペース・カフェ交流スペース・イベントスペース・個別相談ブース・県PRブース等)

この事業によりこう変わる!

1. 日曜日でも、秋田に戻りたい人が秋田県での就職相談ができる。
2. 移住・就職だけでなく、秋田で働いている人や秋田とかかわりのある人が新たに出会う場が広がる。
3. いずれ秋田に戻りたいと考えている若者たちの出会い交流拠点となる。
4. 秋田県内企業と首都圏等の若者との出会い交流の場としても活用できる。

＜小野一彦の今後の取り組み方針＞

県や市町村、秋田活性化ワークショップで出会った方がたなど、さまざまなネットワークを活かして若者の秋田への活躍を増やして参りたい。



2 農業振興について

令和2年

小野一彦の取り組み状況

- 肉用牛若い担い手研修会へ参加
- 肉用牛若い担い手と若いアスパラ担い手との交流会へ参加
- 西目地区、矢島地区、大内地区耕畜連携農家訪問調査
 - ・堆肥活用促進
 - ・堆肥センター機能強化
 - ・国産飼料生産拡大等

堆肥の活用の仕組みづくり



9 令和4年9月21日
月議会

令和4年
第2回定例会 本会議 一般質問



スマートフォンでQRコードをかざすと議会の様子を動画で見ることができます。

再生



質問

肥料価格高騰対策としても、堆肥の活用を広げる取り組み、仕組みづくりを行うべきと質問。



県の答弁

畜産農家と耕種農家との堆肥の需給バランスが悪いことや、散布するための機械と労働力不足によって利用が進まないなどの課題を抱えている。地域の様々な資源を有効活用することによって、本県農業を持続可能なものにし、食料供給基地としての役割をしつかりと果たして参りたい。

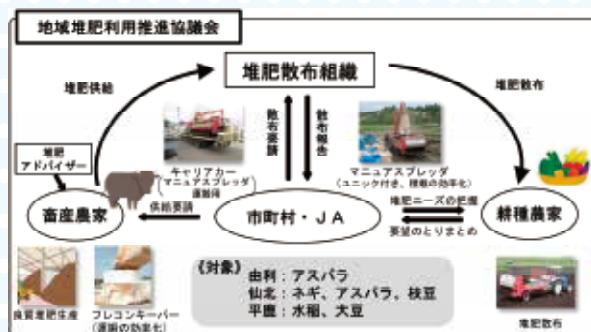
結果

令和5年度当初予算で「耕畜連携体制確立対策事業」が措置されました。

耕畜連携体制確立対策事業

肥料や飼料の価格高騰に対応するため、耕畜連携による循環型農業を推進し、農作物の生産性向上や自給飼料の増産を支援する。

- 堆肥の利用促進による農作物の生産性向上を図るため、堆肥の高品質化や効率的な散布等の取組を支援
- 畜産農家における稲わら確保と稲作農家の所得向上を図るため、地域の実情に応じた稲わら収集・利用のモデル実証に対して支援
- 水田を活用し自給できる新たな濃厚飼料の生産や利用に係る実証



この事業により
こう変わる!

- ・まずは近いエリアで畜産農家とアスパラ農家等をつなぐ。そのための組織づくりや機械化を支援。
- ・稲作農家の稲わらを近くの畜産農家により購買する仕組みと支援
- ・国産飼料生産拡大促進

<小野一彦の今後の取り組み方針>

こうした事業が、現場で生かされて農家の農業経営の向上につながるよう活動を活発に行います。



18歳のとき、羽後本荘駅東側の下宿で、

中島みゆきさんの「時代」という歌をラジオで聴きながら勉強していました。

あれから45年が経過しました。

いま、中島みゆきさんの「俱に(ともに)」という歌を聴いて奮い立っています。

今、この歌を聴いて気づきました。

歳をとっても自分のどこかに青春が息づいていることを。

ともに走り出そう。走り継ごう。

そんな思いで今任期、最終の議会を終えました。

ひとりひとりが主人公、熱い思いが秋田を変える!